

たまあじさいの会

お知らせ



2015年2月

2015年10月から2015年1月までの活動報告	1p
第8回 「日の出町ごみ処分場周辺の一斉水質・放射線調査」から何を学ぶか	2p-3p
講義・・・「水とごみの身近な話 ― 地下水の流れと汚染の広がり ―」	4p-8p
ヤノナミガタチビタムシによるケヤキの食害調査	9p-10p
福島県飯舘村及びその周辺 放射線・植物調査	11p-14p
今後の活動・講演会のお知らせ・ホームページのお知らせ・エコセメント裁判	15p

2015年10月から2015年1月までの活動報告

10月18日(土) 雨宮さんを偲ぶ会 星宿にて	参加 20名
10月21日(火) 出版打ち合わせ (ほんの泉社) 竹林舎	参加 6名
10月28日(火) 出版打ち合わせ 竹林舎	参加 6名
11月 8日(土) 定例放射線測定(馬引沢) AM9:00~	参加 6名
11月13日(木) ホームページ打ち合わせ シビル立川	参加 4名
11月14日(金) 水質事前調査 馬引沢及び清見沢 AM10:00~4:00 立石の採水は不可能 → 今回より中止 新たな調査ポイントは玉の内川と平井川合流点とする	参加 3名
11月15日(土) 第8回 水質調査及び放射線調査 調査活動と講義・・・瀬戸先生	参加 28名
11月23日(日) 「ごみから社会が見えてくる」学習会 郡山	参加 6名
11月29日(土) 高木基金申請打ち合わせ	参加 4名
12月 3日(水) 小村大衛生組合周辺 ラジログによる調査	参加 1名
12月13日(土) 定例放射線測定(馬引沢) AM9:00~	参加 6名
12月13日(土) 土壌採取(放射線測定のため)	
12月28日(日) 多摩川放射線調査	参加 3名
1月 6日(火) ホームページ打ち合わせ	参加 4名

1月10日 (土) 定例放射線測定 (馬引沢) AM9:00~

参加 5名

1月10日 (土) 運営委員会

参加 7名

第8回 「日の出町ごみ処分場周辺の一斉水質・放射線調査」から何を学ぶか

濱田光一

はじめに

晩秋の恒例となった一斉水質調査は、2007年10月から始めて8年が経過した。

第5回から2011.3.11福島第1原発事故の放射能汚染影響調査が加わり、放射線計測も行なっているので、水質・放射線調査と名称を変えて続けているが、ごみ処分場は時代の鏡のようなものである。化学物質や原発が生活に入り込んでくるようになり、人間社会が生み出すごみや、破壊や事故が地球にくっきり刻印され、毎日我々に突きつけている。

30年近い三多摩市民400万人の生活の垢(廃棄物)を日の出町に放り込み続けた、二つの巨大なごみ処分場の、谷戸沢第一処分場と二ツ塚第二処分場は、環境汚染の種類、表れ方の違いがあり、毎年の調査結果に反映されて興味深い。しかし、それは汚染や破壊の事実証拠でもある。

第8回 久しぶりに東京農工大名誉教授の瀬戸昌之先生をお迎えして、「地下水汚染のはなし」(別途講義録参照)を聴き、二大処分場の公害を再確認した。

海洋汚染の水俣は、水銀公害の発生源を断つことによって海が蘇ってきた。

しかし、日の出の地下水がきれいになるには、ごみの供給を断って尚、埋設されたごみ汁の供給が止むまで、どれほどの年月が必要か分からないといわれる。そのことに加害者たる社会・生活者が無関心すぎる現状では、希望が見えてこない。

今回の参加者は地元住民に、立川、杉並、飯能、日高からも加わり、総勢18名である。最初の頃に比較して参加者は半減したが、皆さん調査活動に熱心で、主催者側としては大いに励まされた。



汚染の特徴

調査は、埋め立てを終えた谷戸沢処分場班と、ごみ焼却灰をセメント化する(エコセメント)工場を抱えた二ツ塚処分場班の二つに分かれて調査を担当した。

★谷戸沢処分場は、ごみの焼却灰と破碎ごみの全量を埋め立て、早くから遮水シートの破損を住民から指摘されていたが、案の定地下水の汚染がいまだに止まらない。周辺の沢水は、見たところ飲みそうに透明な水であるが、電気伝導度計の示す汚染度は汚水処理場の排水並みである。また、3.11福島原発の放射能汚染は周辺の放射線量が全国の傾向の通り下がっている。(別表参照)



☆一方二ツ塚処分場はエコセメント化工場を抱えたことで、埋め立てに回す破碎ごみ量は谷戸沢より圧倒的に減った。周辺の沢水の電導度計による汚染値も、谷戸沢の1/3~1/5である。しかし周辺の放射線量は半減期へ向かうどころか、谷戸沢の2~3倍を維持し続けている。これは放射性物質が供給され続けているとしか思えない現象である。ごみの焼却灰は放射線濃度が数十倍に濃縮されている。この灰を焼成しながらセメント化すれば、煙突からは毎日放射性物質やガスが放出され、周囲の放射線量を押し上げているはずだ。計測値にもそれが現れている。(別表参照)

2014年11月15日水質一斉調査

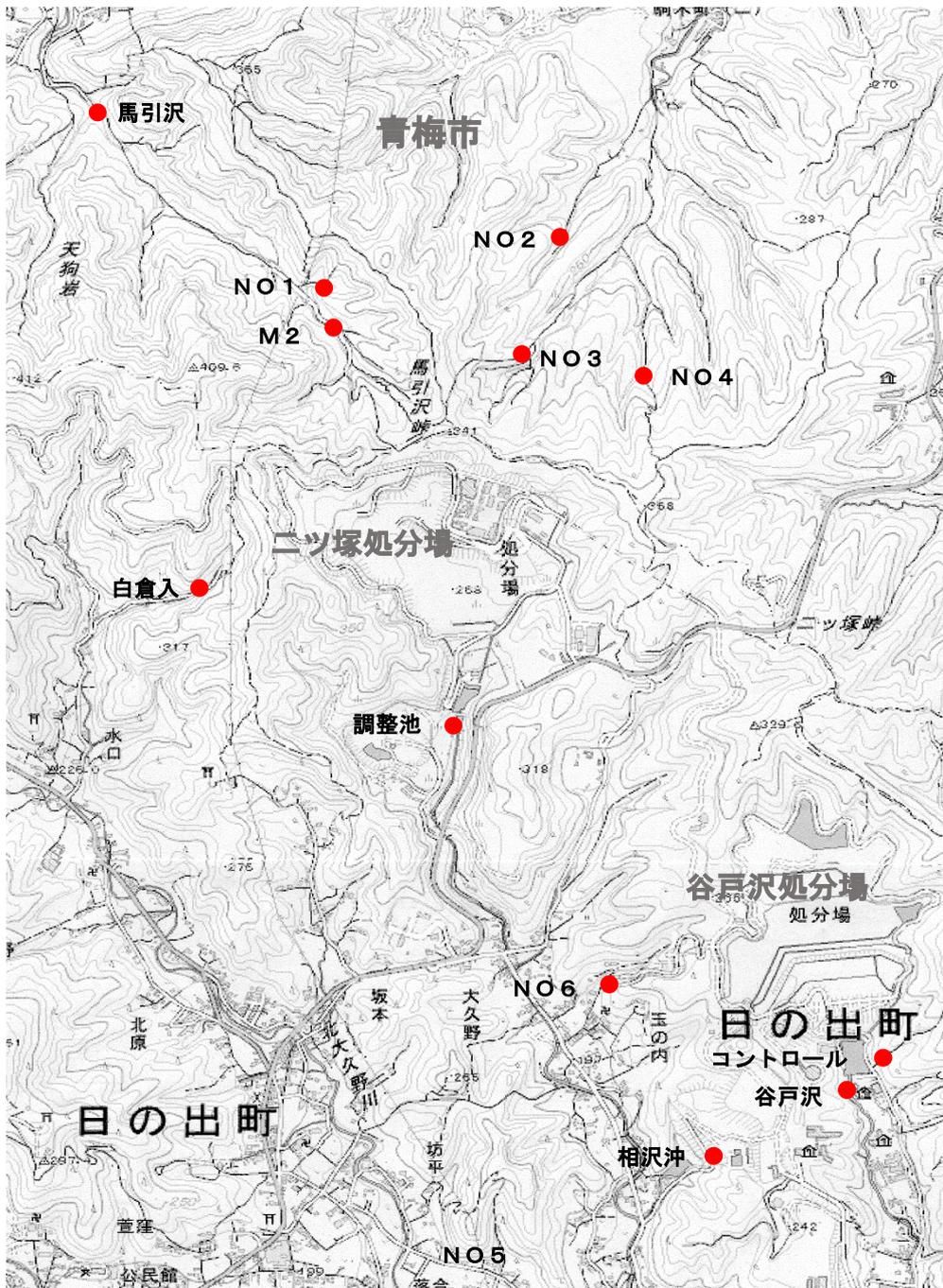
単位 COD・塩化物イオンmg/L

電気伝導率 $\mu\text{S}/\text{cm}$

放射線 $\mu\text{Sv}/\text{h}$

	馬引沢	NO1	M2	NO2	NO3	NO4	NO5	NO6	調整池	谷戸沢	白倉入	相沢沖
COD	5	8	2	2	2	4	6	3	7	8	2	7.5
塩化物イオン	1	0	1	0	1	1	6	1	6	2	2	5
電導度	130	163	195	157	192	257	420	490	436	277	249	952
放射線5cm	0.067	0.1	0.08	0.1	0.093	0.085			0.341		0.076	

水質調査地点



NO5は昨年度まで合流点（平井川と玉の内川）

コントロールは谷戸沢調整池東側の沢 $40\mu\text{S}/\text{cm}$

水とごみの身近な話 ー地下水の流れと汚染の広がりー

講師： 瀬戸昌之（東京農工大学名誉教授）

2014年11月15日 於 竹林舎

瀬戸先生の講義は、本人もお仰せのごとく、やさしい用語と数値での説明でわかりやすかった（誰かに受け売りで話したいくらいに）。確かに水のことは誰にも身近で大事な問題である。講義を聞いていて、理解するために自分なりに考え、解釈をする。この日本で一年間に自分の身長に匹敵するくらいの降雨量があり、狭い国土ではあるが、それは一人当たり5,400トン分にもなる。これは俱に天を戴く限り、等しく得られる（べき）途方もない財産である。よくぞ日本に生まれける。小学校のプールならば15杯分、家庭用のバスタブならば、三万回も使用できる。そのうち約3,800トンはなすすべもなく海に流れたり、太陽で乾燥されたり（蒸発）、植物の活動（発散）で大気に還流するものの、河川や地下水、あるいはダムからの供給で、一人当たり740トンの水が、我々の日々の生活や農業・工業生産に供される。つまり一日2トンをも消費していることになる（家庭の生活用水は一日0.5トン程度）。何と豊かな資源だろう。石油に恵まれたアラブ人が日本の豊かな水資源を見て、「神様はなんと不平等なのか」と叫んだと聞くが、さもあらむ。

この恵まれた水資源が、日本の米を作り、野山を潤し森林を涵養し、ひいては何事もきれいさっぱりと水で流して、禊（ミソギ）することでナンデモカンデモ戦争責任をも忘れてしまう日本人の気質も作り上げた。バカみただけで気楽に生きれることは悪くはない。山川草木悉皆有仏性。世界でもこんなに水に恵まれた四季のある美しい国土はそうはないだろう。豊かな水資源は何ともありがたい。その水が美しくおいしく保たれている限りは。

さて、環境問題について。住んでいる自然環境を守り、健康に生きて、持続可能な経済と社会を実現してゆくための三つの切り口が提起された。（1）水、（2）ゴミ、（3）拡大生産者責任である。ところがどうも、すんなりと問題解決すると困る連中（問題を複雑にして公共のお金をたくさん使って利益を生む利権構造）がいる。そして、そこから巧妙に（体制：政官業と巨大マスコミにより）形成されてきた常識（？）を疑うことなく、おとなしく受容する、権力者に対して優しい、物分りの良すぎる社会があるようだ。そのことが問題解決をさらに困難にして、自然が破壊され、健康が脅かされ、我々市民の生活が危機に瀕することを強いている。（そして国・地方の財政問題として膨大なツケも回ってくる）

1. 水（日本の水の流れ）について

水問題にどのようなものがあるか？

- 1) 洪水
- 2) 水不足
- 3) 汚染

以上の3つしかないだろう。降れば土砂降り（洪水）、降らねば干ばつ（水不足）となるのが、水問題でもある。講師が用意されたレジメの図（日本の水の流れ）を参照；

日本の年間降水総量は 6,500億トン。日本の面積37.7万平方キロに年平均1,700mmの降水量があるゆえに、そのうち三分の一、2,300億トンが蒸発散（乾燥の蒸発、植物の蒸散）として大気に還流し、残りの4,200億トンが土地に浸透したり、河川に流れる。その半分、約2,30

0億トンが、降ったら一気に海に流れる。残り1,900億トンがいわゆる通常の川の流れとなり、そこから取水されたり、ダムや地下水からの900億トンが生活、農業、工業の用水として使用される。しかしこれが日本での使用の限界？（日本人一人当たり年間740トン）経済成長と同じく、さらなる増加は見込めない。

では、洪水や水不足を起こさないために有効なのは、どんな方法だろう？

ダムは？ 多目的（生活、農業、工業用の？）ダムは治水と保存という言葉のごまかし、ムダ（無駄）なのだ。ダムの保管能力は全体で200億トンしかない。用途を限定した治水ダムは24億トンのみ。費用は莫大に嵩んでも、自然の猛威のもとにこころもとない。

ダムの建設によって、反対に、川が流れなくなる現象、水枯れ（水不足）が頻繁に起こる。

洪水や水不足を起こさぬためにも、水源涵養保安する森林は大切である。

100m²の面積に、僅かな10mmの雨が降ると、一の面積にたまる水は1,000mmとなる。これを想像する感覚が大切。都会はコンクリートとアスファルト、だから雨水は染み込まず、都心ではそのまま表流して神田川に雪崩れ込み、すぐに満杯状態になる。ゆえに環状7号線の地下には直径1.2Mの巨大パイプが走り、洪水を起こさぬように引き込む施設がある。埼玉県にはパルテノン宮殿のように壮大な、30万トンの地下ダムが、1,000億円をもの経費を掛けて設置されている。他にも製造中、計画中の地下ダムが、巨大工事ながらも地下で、人目を憚るように静かに進行している。

ところで、1キロ四方の棚田にはどれくらいの水が保水されるだろうか？

1,000 x 1,000 x 0.3M（水田の水深が30cmとして）=30万トン

これは巨大地下ダムの貯蔵量に匹敵する。地下ダムのメンテナンスだけでも年間100億円という、莫大な費用が掛かる。しかし水田ならば、農家に依頼すると、1億円もあれば十分だろう（そして当然ながら、米という生産物が出る。1平方kmは、100町部、つまり1,000反、反収10俵として10,000俵、すなわち600トン、キロ当たり200円としても120,000,000円、つまり1億2千万円の売上にもなる）

棚田・森林は自然の保水力の素晴らしい力を有する。（コストも掛らず、生産物が得られる）そこに染み込む地下水も膨大な量で、地下水が数年から数十年も掛けて流れる地層は壮大且つ緻密で精巧なフィルターであり、自然のイオン交換樹脂膜とも言える。天の恵みの雨水を、森林や田畑を大切に涵養することで自然にうまく地中に浸透させれば、洪水も防げて、河川の流れも安定して用水の確保が出来る。水不足の際は、地中に多量に浸透して蓄えられている地下水は補完的役割も果たし、供給問題はいつも簡単に解決するだろう。日の出町の公共下水道を完備することは、地下水や河川への生活用水が染み込まなくなることで流れが細まる影響が出るらしい。それを予知して日の出の漁業協同組合長も反対していた。

地下水を詳しく見ると、その貯水量は関東平野だけで4000億トンもある（日本の全部のダムで200億トン）。水の需要は低下しつつある（生活用水、工業用水の減少）。なのに何故、八ッ場ダムなどの巨大工事が急がれるのか。政官業の癒着=権力構造にほかならぬ。ケインズ経済学の模範的公共事業あのテネシー川 TVA 計画さへコスト・パフォーマンスでは無駄であったとの評価が下されている。ダムはやっぱ（八ッ場）り無駄である。

自然の大地が持つ保水力が如何に素晴らしいものか。大雨が降ろうと、日照りが続こうと、山の宿の溪流の水量は年中、ほとんど変わらないではないか。（人物も器が大きいと感情を露わにしない）雨水をよく染み込ませることにより、地下水を蓄えることは、洪水を未然に防ぎ、旱魃をも救う。自然の大いなる力はもっと尊敬され評価され、頼られるべき存在であるのに、この恵まれた日本の国土では利権に群がる矮小な産官業により歪められている。まったく地下水は良いことだらけなのに。夏冷たく、冬暖かい。そして安い。飲んでおいしく、地場産

業を育てて来た。なんと安価な資源なのだろう。井戸水を30m掘り下げ、電動ポンプを設置しても、1m³のコスト単価は僅か7円。身近にあるのに気付かない幸せのようなものだ。立川の水道料（庭木に掛けても課金される）160円程（300円のところもある）。一般家庭には、さらに下水道料金が加算される。ぼったくりのような水商売そのものではないか。

ところが、その地下水が汚染されて来ている。巨大ゴミ処分場による汚染は、遮水シートなどで守れる訳がない。あるいは、顕著なのは半導体工場等によるトリクロロエチレンの汚染。農工大の井戸ではWHO基準30ppbの10倍を超えていた。7,000万円の浄化装置、井戸水を汲み上げ曝気、ガス化して活性炭処理と、たいへんなことになっている。地下水の量は膨大であるから、汚れに気づきにくい。気付いたときは、もう遅い。原因ははっきりしていても、その因果関係を証明してゆくことは難しい。

水の独特の性質についても今更ながらも勉強が出来た。水の特性は？電子レンジは何故熱くなるのだろうか？マイクロウェーブ（電子線）によって水分子（酸素はマイナス電子、水素プラス電子）が激しく運動する。水はいろんな物質（イオン化するから）を良く溶かす（これも酸素と水素のプラス・マイナスがある故に）温まりにくく、冷えにくいのは水分子のスクラム結合が強いからである。植物のジャイアントセコイアは何故百メートルにも成長できるのか。根から吸収した水分がどうして百メートルの高さまで導管を通じて汲み上げられるのだろうか？（10メートルが限界なのに）これも水の特徴である、強力な水分子同士のスクラムのお蔭で、途切れずに樹木の突端までに引き上げられるのである。

水の三変化（個体、液体、蒸気）もその温度の幅が（もっとも）広いユニークさ。水の温度による比重の変化に特徴がある。摂氏4度で最少の体積となるゆえに、海の底から凍りついてくるような、恐ろしい(?) ことにはならない。だから海洋は地球の自転と併せ、大掛かりの海流が生じ、結果として絶妙の気候をもたらしているのだろう。これは、余計なことだが、「水五訓」黒田官兵衛(黒田如水)の教えがある。企業の応接室などで目にする。

- 一、自ら活動して他を動かすは水なり
- 二、常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 三、障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 四、自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ入るは水なり
- 五、洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり、雪と変じ霰と化し凝しては玲瓏たる鏡となりたえるも其の性を失はざるは水なり

水を電気分解すると酸素が出来るのだが、日の出の健康被害、青梅のアレルギーの問題成人病、水のイオン化、活性酸素、フリーラジカル、SOD、NOX、SOX、水のイオン化や有機物のイオン化が、現代病の問題の根源ではないだろうか。酸素は、そもそも地球の生物の進化上では毒なのだ。光合成では酸素は廃棄物、毒である。数億年のうちに、廃棄物である酸素が大気の21%を占めるようになった。酸素は酸化力が強い。殺菌性があるから生命には毒。しかし、その廃棄物である酸素を同化する二つの酵素、つまり酸素の解毒の酵素を発達させたがゆえに、次の段階の生命が生まれ出た。

さて、その『水』の第三番目に挙げた汚染の話。

汚染を測定するには電気伝導度がある。無機物が多いほど高くなる。きれいな水、純水は本来不電導なのだが、

蒸留水も空気中の二酸化炭素などを溶かして、導電性を帯び始め、 $30\ \mu\text{S}$ (マイクロシーメンス) 程度になる。本日 (1月15日) 測定最低の $43\ \mu\text{S}$ のとりわけ低い値は、処分場とは距離的には近いが、別の異なった水系 (地下水脈) のものであった。汚れは無機物 (電気伝導度、塩化物など。海の影響がなければ人間由来であろう) と有機物は (BOD 等で計測出来る) による汚染と大別できる。上述のように日本の国土に大量に降る雨が、森林や水田によって自然にきれいに染み込んでいった『地下水』は素晴らしい資源であり、神様からの贈り物と言える。その『地下水』の有難さを忘れるどころか、汚すとは、まさに天に唾するもの。

2. ゴミ問題と拡大生産者責任 EPR について考える。

行政は「ゴミ問題は危機的である」、というのがゴミ処分と不法投棄、いくら費用が掛かるのか? 製品はやがてゴミになる。製造したメーカーの責任はないのだろうか?

ペットボトルの再資源化は必要 (悪) であるが、その原料と配合は企業秘密ということで開示がされにくい。そんなことで必要悪ながらも、効果的な再資源化が阻まれている?

ゴミは、そのままでも、焼却されても、再資源化されても大気や地下水を、必ず汚染するのだが、ならば効率的で環境や住民の健康への負荷が最も小さい方法を模索し、採用すべきなのに、である。

なぜに政治は、あるいは社会は、製品の生産者に対してその製品の処理・廃棄についても責任 (拡大生産者責任: EPR) を負わせようとししないのか。生産者、メーカーは製品に責任を持つのみならず、その廃棄にも責任を持つべきであることは自明であり、日本も参加している OECD (経済協力開発機構) の決議事項ともなっている。製品の廃棄について、いったいどのような理由と論理で、公共団体が (つまり税金により) 最終処理をしなければならないのであろうか。製品の受益者ではない (つまりその商品を購入していない) 市民が、その廃棄処理費用を一律に負担することにもなり得るし、受益者負担の原則からおかしい。飲料などは消費者が製品を購入する際に、容器のデポジット制を導入することで、企業はその合理的な処理をしないわけには行かなくなる。作りっぱなしではなく、消費された後にまで製品の製造責任を生産者が負うこと。拡大生産者責任ということである。廃棄にまで責任を負うわけだから、メーカーもその際の費用を考慮して、製品設計段階から再資源化できない (しにくい) 資材・原料を使用するはずがない。拡大生産者責任の原則や RE-USE RE-CYCLE の思想を徹底することは、行政 (税金) の無駄遣いなしに、再処理・資源化できて、ゴミの減量化を図れるということである。白物家電などについては家電リサイクル法が出来たが、消費者にその廃棄の責任を負わせるものだから - 結果として不法投棄のような悲しい結末、となる。拡大生産者責任は、汚染者負担の原則でもある。汚した人がきれいにするのは当然である。一升瓶やビール瓶のなどについては、デポジット制が未だ残っている。(しかしその料金は、筆者が記憶している昭和30年代から一律10円と5円と全く変わらない。卵と同じく物価の優等生であると感心! するだけでよいのだろうか?) 拡大生産者責任の運用やルール作りについては国や地域の実情に応じ、製品やサービスの性質において CUSTOMIZE してゆけば良い。でもこの考え方そのものは、人類の生産力が自然の持つ回復力をはるかに凌駕して、資源の限界が誰の眼にも明らかになり、現実となった今日において重要性を帯びてくる。この拡大生産者責任という考え方は民主主義や表現や言論の自由、財産の私有や教育を受ける権利などの基本的人権、勤労や納税の義務等、あるいは動物愛護の精神や、人種・性差別の諸問題と同等のレベルで、さらに LOHAS 「lifestyles of health and sustainability」 (健康と持続可能性の、またこれを重視する生活様式) と一緒に追及されるべき、いわゆる通念として正しいありかた (正義) を求めて、社会でもっと議論を行い定着、徹底されてゆくべきものと思う。時間はあまり残されていないかもしれないが。

原発の放射性物質の汚染対策費用 (つまりマイナスの利益) は国が、税金と将来の国民に対するツケとして負い、原子力政策の利益は原子力村が独占するなんて、まるで「君のものはボクのもの。ボクの上はボクのもの」

なんて、そんなおかしな常識がまかり通る世の中なのである。絶対の安全神話を唱えていても、いざ事故が発生してもそれは予知できぬ天災故に不可抗力、つまり損害賠償は免責され、刑事責任も問えない体制なのだ。国も、政治家も、裁判所も、巨大マスコミも信頼できない状況では、市民の力（運動）でしかその間違いを正して行けないのではないだろうか。現代の（日本）人たちはへんに優しい、曖昧な、物分りのよい人々が多いのである。厳しいことは嫌われる、突出すると笑われる。正しいことをすればバカにされ、遠くに眼差しを置けば天然ボケと揶揄される状況においても、ひるむことなく。

ひるがえって今日（2014年11月15日）の日の出の水質調査でも明らかになったことは、電気伝導度も、CODも塩化物も高い数値が観測されたが、それは処分場からゴミ汁が漏れて地下水を汚染した証拠。

災害の時は、水道システムはすぐに破壊されるが、ところがどっこい地下水（井戸水）はしぶとくタフである。それも地下水の良いところ。（言うまでもなく自然は偉大なのだ）それが、おかしなことに近年、地下水は危険だという、刷り込みが巧妙になされているのではないか。産業や行政などの体制が、自分で地下水を汚しておいて危険だと騒ぐ。まさにマッチ・ポンプではないか。（ならば南アルプスの天然水などと言って、本来無料であるはずの水をペットボトルに入れて売る行為は、放火魔的確信犯？）

富士山に降った雨が柿田川に流れ出るのは30年後。地下水は、その間にフィルターも掛かるので安全と言える。デマに翻弄され、ごまかされてはいけない。反対にハザード・マップで危険性を訴えると、その地域の不動産の下落なんかを先に慮っていちやもんつけるバカがいる。（正しいことを言うと下らぬ抵抗に会うのがこの社会なのか）

平井川の重金属の測定、あきる野市の発表ではNDだが安全か？

行政に安心してはいけない。NDとするには検出限界値を上げてゆくだけのこと。いくらでもごまかしが効く。だから市民がリードして行くべきである。しかし技術的には水中に溶け込んだ重金属類を測定するのは物理的に困難である。あの水俣病の時も、水質では検知できなかった。汚泥などに高く集中していたりする場合がある。しなやかに、したたかに、倦まず弛まず、日は暮れて道は遠いが、正しく仕事して、生活して勉強してゆく他ないのだろう。自分たちの健康は自分で守り、美しい国土と環境を維持し、未来を担保する再生可能な経済活動に従事するためには。この筆者である自分が、あまりエラそうなこと言っても無責任極まるので、取り敢えずは、出来ることからLOHAS的生活を。無いより、あるだけ良し、ということでお許しください。



文責：古澤

ヤノナミガタチビタマムシによるケヤキの食害調査

2014年8月22日 参加者8名

ヤノナミガタチビタマムシは体長3~4mm程度のタマムシ科の昆虫ですが、幼虫・成虫ともにケヤキの葉に食害を及ぼす害虫です。(写真参照) 本来は秋から冬にかけて紅葉・落葉するケヤキが、ヤノナミガタチビタマムシによって夏季に葉が茶色に変色して落葉する状況が2008年ころから多摩川沿岸、宮ノ平から柚木町にかけて見られるようになった。(写真参照) 年々食害による夏季の落葉は顕在化し、「たまあじさいの会」が調査を行った2009年の調査では、青梅市の万年橋から上流の軍畑大橋までの間の多摩川沿いと、軍畑から榎峠までの間にケヤキの被害が見られた。日の出町に於いても平井川および北大久野川の流域に同様の被害があった。これらの地域に共通してみられる気象的な現象は、渓谷の開口部から山谷風の顕著に及ぶ上流にかけての地域にみられる鉛直循環流*である。2011年の調査では被害はよりひどく広域化していたが、地域的には鉛直循環流のある気象的な条件のある地域に限られていた。

最近になってケヤキのチビタマムシによる食害が広域化していることがわかり、8月22日、被害地域の特定をするため調査を行った。調査地域は埼玉県日高市、飯能市、青梅市、日の出町、あきる野市に及んだ。(次ページの地図を参照)

今回の調査で以下のことが言える

- 1、 継続的に調査している多摩川沿いの被害状況は、昨年までは青梅市の万年橋から軍畑大橋までであったが、今回の調査で沢井・御岳間まで広がっている。
- 2、 日の出町に於いては、平井川下流は三吉野団地まで広がっていた被害は、萱窪から500m下流まで減少した。
- 3、 被害の見られる地域はほとんどが渓谷状の地形にあり、そこを流れる河川沿いに被害は拡がりを見せている。
- 4、 ①~⑩までの地域に共通する汚染物質等を排出する施設は見いだされなかった
- 5、 都市部には被害を受けたケヤキは見つからなかった



ヤノナミガタチビタマムシ

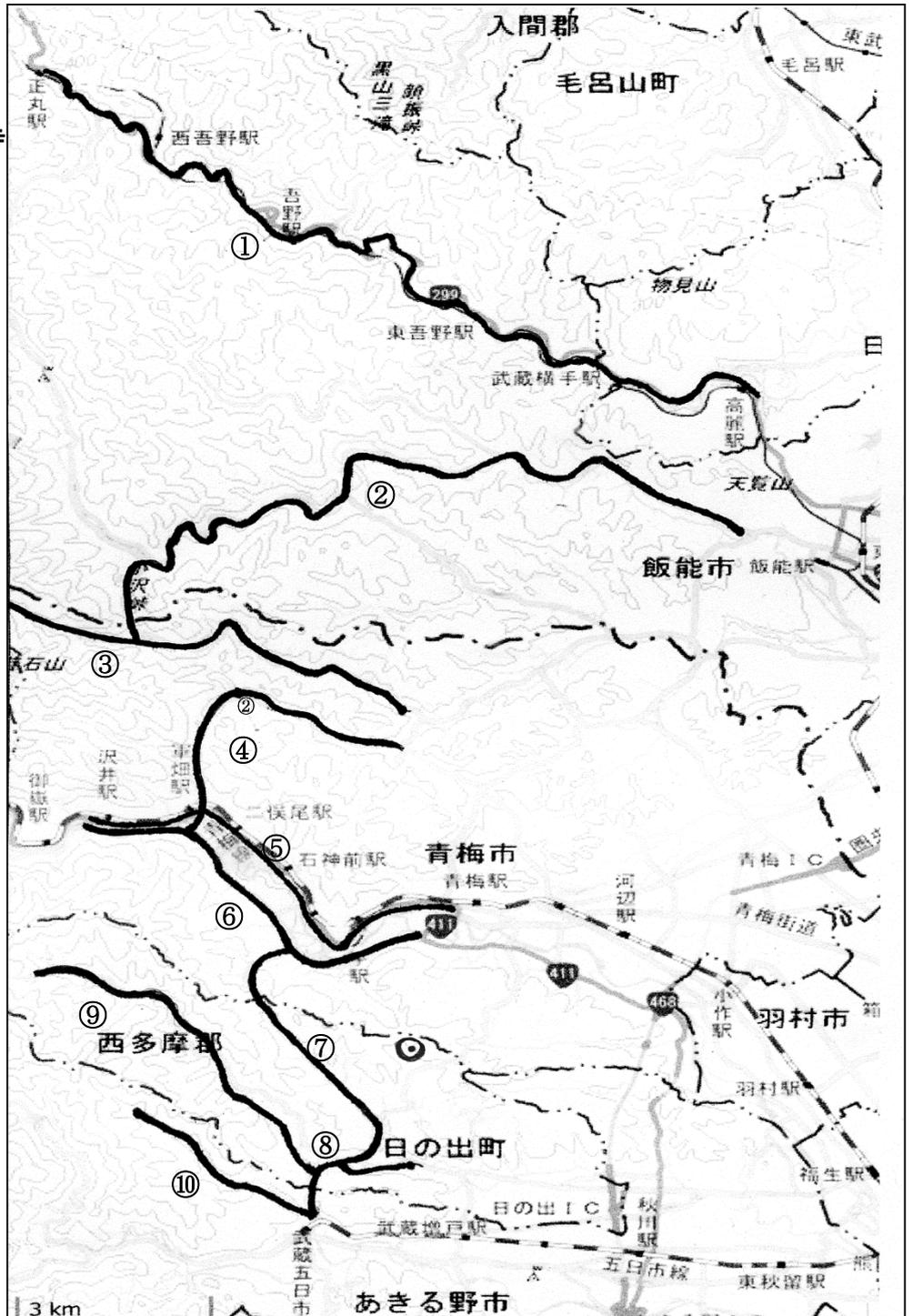


2010年9月撮影 多摩川奥多摩橋から撮影

ヤノナミガタチビタムシによるケヤキの食害の見られる地域

2014年8月22日

- ① 299号線 高麗駅から正丸峠
(13.6キロ)
- ② 70号線 小沢峠、飯能市円福寺
から岩根橋(10.4キロ)
- ③ 53号線 青梅市成木5丁目から
6.5キロ
- ③ 193号線 青梅市軍畑から吹上
トンネル(3.3キロ)
- ④ 411号線 青梅市市民会館から
沢井(6キロ)
- ⑤ 45号線 青梅市万年橋から
沢井(6キロ)
- ⑥ 251号線 梅ヶ谷峠から
日の出町坂本(3.3キロ)
- ⑧ 31号線 坂本から五日市駅
(2.6キロ)
- ⑨ 温泉入口から日の出山登山口
(6キロ)
- ⑩ 五日市駅から3.5キロ



* 鉛直循環流.....日中谷風によって上流に運ばれた風は、日没とともに冷えて山風となって低く谷を下るが、都市部の暖かい空気が壁となって谷の出入り口で上昇し上空を山に向かう。この結果循環内に汚染物質が滞留する。

安藤 隆

福島県飯舘村及びその周辺 放射線・植物調査

たまあじさいの会では、2014年9月6日から7日にかけて福島県飯舘村を目的地として福島第一原発の周辺地域の植物及び放射線の調査を行った。

植物の調査、放射線の測定は、福島県に向かう道中は、主に車内で行い、いくつかのポイント地点においては、車外に降りて行った。放射線の測定は、たまあじさいの会所有の堀場PA1000と八王子ハカルワカルの会よりお借りしたラジログウォーカーにて測定した。

青梅インターから高速に入り、埼玉県まで放射線量も低く安定していた。栃木県に入り、佐野SAで休憩し植物を見るとエリア内の多くの松が枯れているのを見つけた。原因は分からないが、これも環境の変化がもたらしたものではないかと推測される。そして矢板付近から放射線量が上がり始め $0.1 \mu\text{Sv/h}$ を超えてきた。那須高原を過ぎ、福島県内に入ると白河あたりからさらに上がり始め安積、郡山、安達太良、二本松と通過すると $0.2 \sim 0.3 \mu\text{Sv/h}$ と上がり、二本松ICを下りた時は最大 $0.673 \mu\text{Sv/h}$ まで上昇していた。これは、車内の移動中での値であるから、車外では、もっと高い値が出ると推測できる。



ようになった。人家はあるが、人の気配はなく、家の周りには、除染のためにはぎとった廃棄物を入れるフレコンが積んである。広い田畑も土をはぎ取られ大量のフレコンが積み上げられていた。ときどき作業員とみられる人々の乗る車とすれ違う。除染作業員の健康被害が言われるが、この高い線量の中で働

途中二本松市下長折の安達高校近くになるとまた上がり始めたので、車外で計測をすると、地上1mで平均 $0.67 \mu\text{Sv/h}$ ほど、5cmで平均 $0.85 \mu\text{Sv/h}$ だった。川俣町に入ると沢沿いのケヤキが傷んでいる様子が見られる。線量は二本松とほぼ同じくらいであった。飯舘村に入ると、除染作業を行っている様子が見られる



周辺はていねいに除染しているのだろうか。

近くに人の集まっている集会所があったので行ってみると、そこは、「**いいたて全村見守り隊詰所(いちばん館)**」であった。そこで、長泥地区の区長さんの嶋原良友さんにお会いし、お話を伺うことができた。全村で74世帯、277人が住んでいた美しい村には、今は帰宅困難区域となり、もうだれ一人住んでいない。立ち入り禁止区域に入れるのは、3日に一回4時間のみ、15歳以下は立ち入りすらできないという。

くことで被曝を続けることは早くやめるべきではないか。大成建設、東急建設などの大手JVが引き受け、多額の税金をつぎ込むこの作業は、無駄だけでなく人の生命すら軽視する行為に思える。飯舘村に入ったところで車外の線量を測ってみたところ、地上1mで $0.72 \mu\text{Sv/h}$ 、地上5cmで $1.07 \mu\text{Sv/h}$ ほどであった。飯舘村の村役場は、中には人はなく、**玄関前に放射線計測モニター**がありその値は、 $0.72 \mu\text{Sv/h}$ であった。その直下5cmが、 $0.9 \mu\text{Sv/h}$ だった。やはり、計測器の

「福島第一原発での事故発生後、放射線量が年間積算線量20ミリシーベルト（mSv）に達する恐れがあるとされながら、避難指示区域には指定されなかった福島県飯舘村で、村民が県発表の倍近く初期被曝していた疑いが浮上した。原発の安全性を説く御用学者による『安全講演』が、無用の住民被曝を招いたとの指摘が出ている。飯舘村では原発事故直後の2011年3月15日に放射能を帯びた雪が降ったため、その日の午後6時20分の時間当たり放射線量が44・7マイクロシーベルト（ μSv ）と跳ね上がったが、その時点で村民はほとんど村内にいた。そのため原発に近い町村の人たちは3月12日の避難指示でいち早く避難したが、指示がなくて遅れた飯舘村の方がむしろ多く被曝した。（飯舘村関連のホームページより抜粋）

嶋原さんは言う。今の除染は、無駄でしかない。田畑や、住居地区を除染しても、山をすべて除染することは無理だ。国は、それぞれの地域に任すというが、もし、この地区にもう住めないのなら、住めないと決めてほしい。除染を続けることは、それを先延ばしにしているだけで、今の状態が避難している村民にとって一番つらい。山下何某先生や高村何某先生が大丈夫だなどと言っていたが、住んでいた人がいるからと本当のことを発表しないのは、余計なストレスになった。分からないのなら、分からないということを書いてほしい。私たちは、素人だから、現状を知るための技術的な手助けをして欲しい。

いちばん館の前には、モニタリングポストがあったが、鉄柵で囲われ、周りはコンクリートで固められていた。ここから、測定されたデータが送られているのだ。

嶋原さん教えていただき長泥地区へ向かう。長泥地区に近づくにつれ線量が上がり、 $1.8\mu\text{Sv/h}$ 、 $2.0\mu\text{Sv/h}$ 、 $3.0\mu\text{Sv/h}$ とどんどん上がっていった。立ち入り禁止区域の前のゲート前には、ガードマンおり制止されたが、嶋原さんに連絡をとり、中に入ることができた。ゲート前では、1mで、 $5.382\mu\text{Sv/h}$ 、5cmで $6.945\mu\text{Sv/h}$ だった。立ち入り禁止区域内の道路上5cmで、 $7.040\mu\text{Sv/h}$ であった。あとから、心配してくださったのか嶋原さんが来てくださり、遠くに長泥地区を見ながらお話をうかがった。村への思い、村民たちへの思いがひしひしと伝わってきた。



飯舘村に入ってからずっと気になっていたが、長泥地区に入って9月だというのに虫の姿を見ることがなく、鳥の声も聞こえない。なんとも不気味だ。

宿のある福島氏をめざす。途中月舘では、線量が $0.075\mu\text{Sv/h}$ と下がったが、福島市大波を過ぎると再び $0.175\mu\text{Sv/h}$ から $0.293\mu\text{Sv/h}$ に上がってきた。宿の中は、 0.11 から $0.12\mu\text{Sv/h}$ だが、外は、 $0.22\mu\text{Sv/h}$ はある。

翌日、市内から出ると線量は下がり山形県の米沢で 0.03 から $0.04\mu\text{Sv/h}$ 、福島県喜多方市内で 0.06 から $0.07\mu\text{Sv/h}$ だった。植物もきれいだった。

「福島」は、まだまだ収束などしていない。いや、前向きに明るく生きようとしながらも、苦しみ悩み続ける多くの人々がいる。しかし、国や東電はそれに真摯に向き合おうとしない。なんとも理不尽な話だ。フクシマの恩恵を受け続けてきた身としては、何ができるのだろうか。考え込まざるを得ない調査行だった。

山口 隆幸

福島第一原発周辺植物・放射線調査(2014年9月6日～7日)

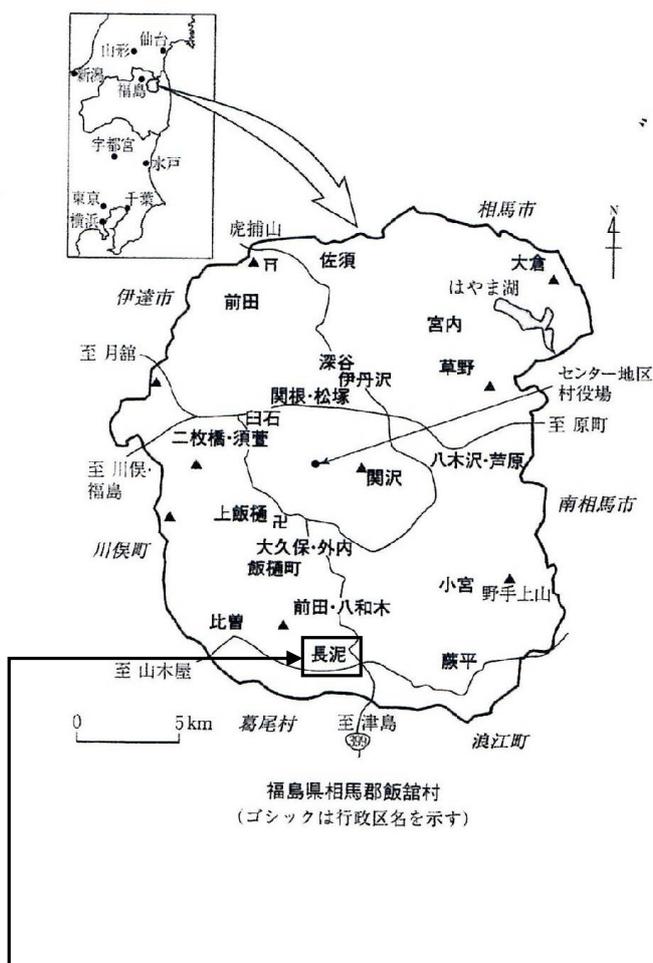
月日	時刻	場 所	放射線量(μSv/h)	放射線量(μSv/h)	測 定 位 置
9/6	7:00	東京都青梅市青梅インター	0.043		移動中車内
	8:00	埼玉県桶川北本インター	0.032		移動中車内
	8:10	埼玉県岩槻インター	0.040		移動中車内
		埼玉県羽生 PA	0.051		移動中車内
	8:40	栃木県佐野 SA(トイレ内)	地上1m 0.086		車外
		栃木県佐野 SA(車外)	地上1m 0.057		車外
	9:20	栃木県矢板インター	0.050		移動中車内
	9:40	栃木県矢板北インター	0.110		移動中車内
		栃木県西那須野付近	0.186		移動中車内
	9:45	栃木県黒磯付近	0.115		移動中車内
		栃木県板室付近	0.148		移動中車内
	9:55	栃木県那須高原付近	0.139		移動中車内
	10:00	福島県白河インター付近	0.145		移動中車内
	10:05	福島県白河中央インター付近	0.150		移動中車内
	10:10	福島県矢吹インター付近	0.090		移動中車内
	10:20	福島県安積インター—付近	0.196		移動中車内
	10:25	福島県郡山インター付近	0.195		移動中車内
		福島県安達太良 PA 付近	0.125		移動中車内
	10:35	福島県二本松付近	0.261		移動中車内
	10:45	福島県二本松インター	0.544		移動中車内
		福島県浪江町	0.302		移動中車内
	11:00	福島県安達東高校付近	0.548		移動中車内
		福島県下長折バス停付近	地上1m 0.676	地上5cm 0.850	車外
	11:55	福島県川俣町川俣高校前	0.066		移動中車内
	12:50	福島県飯舘村	地上1m 0.729	地上5cm 1.072	車外
	13:50	福島県飯舘村役場前	地上1m 0.780	地上5cm 0.900	車外
	15:45	福島県飯舘村長泥地区	1.940		車内にて 0.908 から 3.051 へ増加
		立ち入り禁止区域入口付近	地上1m 5.382	地上5cm 7.040	車外
	17:30	福島県月舘	0.082		移動中車内
	17:40	福島県福島市大波	0.277		移動中車内
		福島県福島市内宿泊地	地上1m 0.121		車外
9/7	9:00	福島県福島市	0.222		移動中車内
	9:30	福島県福島市松川付近	0.178		移動中車内
		山形県米沢市	0.039		移動中車内
		山形県米沢市 市街地	0.031		移動中車内
		山形県米沢駅	地上1m 0.062		車外
	11:50	山形県米沢市上杉神社	地上1m 0.067		車外

	13:00	福島県喜多方市内	0.061	移動中車内
	17:00	新潟県新潟駅付近	0.044	移動中車内
	17:50	新潟県新潟港付近	0.025	移動中車内

参考資料

[避難指示解除準備区域](#) (2014年11月現在)

- ■八木沢・芦原行政区
- ■大倉行政区
- ■佐須行政区
- ■二枚橋・須萱行政区
- [居住制限区域](#) (2014年11月現在)
 - ■草野行政区
 - ■深谷行政区
 - ■伊丹沢行政区【村役場所在地】
 - ■関沢行政区
 - ■小宮行政区
 - ■宮内行政区
 - ■飯樋町行政区
 - ■前田・八和木行政区
 - ■大久保・外内行政区
 - ■上飯樋行政区
 - ■比曾行政区
 - ■蕨平行政区
 - ■関根・松塚行政区
 - ■白石行政区
 - ■前田行政区
- [帰還困難区域](#) (2014年11月現在)
 - ■長泥行政区



(地図は、千葉悦子・松野光伸著「飯館村は負けない」)

今後の活動

- 3月 7日(土) 定例放射線測定 9:00 馬引沢入口集合
3月14日(土) 市民環境問題講演会 14:00 青梅市市民会館1F多目的室
4月11日(土) 定例放射線測定 9:00 馬引沢入口集合
5月 9日(土) 定例放射線測定 9:00 馬引沢入口集合

第33回市民環境問題講演会

28年前のチェルノブイリに原発事故から日本は何を学ぶべきか！

—福島原発事故後4年間の測定結果から見えてきたもの—

講師： 青木一政さん 福島老朽原発を考える会（フクロウの会）事務局長
市民放射能監視センター「ちくりん舎」副理事長

日時： 3月14日(土) 開演14:00

場所： 青梅市民会館 B1F多目的室

資料代：500円

連絡先： t e l ・ f a x 0428-23-6621
090-2313-7481 (濱田)

..... 新しいホームページ 2015年2月9日より

今まで運用していた二つのホームページとブログを最新の技術で一本化します。

新URL <http://tamaajisai.net> はパソコン・スマホ・携帯からアクセスできます。最新情報はこちらから。過去記事も順次移行します。新ホームページに1日一回または週一でもお寄りください。皆様のご意見ご要望、どんなことでも構いませんので「お問い合わせ」欄にお寄せください。ツイッターやフェイスブックをお使いの方には、「ツイート」「いいね」をドンドンお願い致します。皆様のご活用を心底から期待しております。

..... エコセメント裁判控訴審判決のお知らせ

2012年5月東京高裁で始まったエコセメント化施設操業差止訴訟の裁判がいよいよ結審します

日時：2015年3月26日(木) 1:30

場所： 東京高裁 812号法廷

地下鉄日比谷線、丸の内線、千代田線 霞が関駅徒歩5分

..... たまあじさいの会の活動は、1993年3月に発足し今年で22年になります。
この間の活動は皆さんの会費・カンパで成り立ってきました。
今後ともよろしく願います。.....

